

課題名	31 特産果樹の生産安定と商品性向上技術の確立	分類	①
	(1) リンゴの主要品種に適応するわい性台木の選定		
試験研究年次	58～2年(完了)		
I 目的 暖地におけるリンゴの主要品種に適応するわい性台木を選定して、生産の安定と商品性の向上を図るための資料とする。			
II 試験方法			
1 供試材料	台木品種：M9、M26 穂木品種：つがる、千秋、陽光、王林、ふじ		
2 供試場所	場内圃場		
3 試験区の構成	各品種4本供試		
4 試験処理	植え付け：58年3月 整枝法：スレンダースピンドルブッシュ (細形紡錘形仕立て) 栽植距離：4.0m×2.5m(100本/10a)		
III 主要成果の概要			
<p>主要品種である‘つがる’、‘陽光’及び‘王林’におけるわい性台木は主幹の肥大及び収量面でM9台が勝り、‘千秋’及び‘ふじ’ではM9、M26台とも生育・収量差はみられない。</p> <p>1 M26台は、穂木品種‘つがる’、‘陽光’及び‘王林’との接木部がコブ状に大きく肥大して、主幹の肥大が劣り、収量も低い。 果実肥大は‘つがる’及び‘王林’以外の品種において、M26台の方が勝る。また、糖度も同様な傾向がみられるが、その差は僅かである。</p> <p>2 M9台は‘千秋’及び‘ふじ’において、M26台との生育差はみられない。</p> <p>3 M26台とM9台を台木とした主要品種において、成熟期と果実品質には差がみられない。</p>			

IV 主要成果の具体的データ											
第1表 台木が主幹の肥大及び収量に及ぼす影響											(60~2年)
台木品	種	主幹径		2年/ 63年 x100	M9 / M26	接目 肥大 程度	収量(1樹当たり)				
		60年	2年				62年	63年	1年	2年	累計
		cm	cm				kg	kg	kg	kg	kg
M9	つがる	30	84	275	115	なし	6.1	14.6	14.8	20.1	55.6
	陽光	27	91	342	103	なし	6.1	12.0	19.6	21.2	58.9
	王林	34	96	286	102	なし	5.2	13.3	14.2	21.1	53.8
	千秋	25	78	313	97	なし	3.8	5.2	8.8	11.9	29.7
	ふじ	29	105	367	96	なし	3.6	7.9	23.7	33.7	68.9
M26	つがる	29	73	255	100	大	3.1	7.6	10.2	19.0	39.9
	陽光	27	88	322	100	中	5.1	10.9	16.2	20.9	53.1
	王林	34	95	279	100	大	4.7	6.8	12.1	20.5	44.1
	千秋	25	80	319	100	小	4.1	6.1	7.0	11.9	29.1
	ふじ	31	109	356	100	なし	4.0	7.3	23.8	33.5	68.6

第2表 果実品質							(63~2年平均)
台木品	種	1果重	着色		糖度	酸度	
		g	カラチャート	%	%	%	
M9	つがる	277	2.9	72	13.8	0.33	
	陽光	336	3.1	81	13.5	0.34	
	王林	279	—	—	14.5	0.32	
	千秋	243	2.8	84	14.1	0.36	
	ふじ	271	3.8	68	13.9	0.34	
M26	つがる	241	3.3	78	13.4	0.30	
	陽光	375	3.6	87	14.2	0.36	
	王林	263	—	—	14.5	0.32	
	千秋	256	2.7	83	14.2	0.35	
	ふじ	296	3.6	81	14.4	0.37	

注) 着色%は果面のカラチャート色の割合

V 成果の評価と取扱上の留意点
暖地におけるリンゴのわい性台木の選定の資料として活用できる。

VI 今後の研究上の問題点
結実量の増加に耐え得るわい性台木の育種及び探索

VII 資料名
1 福岡県農業総合試験場研究報告(B) 第9号
2 58~2年度 福岡県農業総合試験場豊前分場果樹研究室成績書